



# ひよこぐみだより

第11号



平成28年2月10日(水)

暖かい日、寒い日を繰り返し、一步一步春が近づいています。暖かい日には、子どもたちの体調を見ながら園庭やテラスに出て、小さな春を見つけていきたいと思います。インフルエンザや胃腸炎など感染症が心配な季節となりました。室内の換気、加湿などに留意して快適な環境の下で、健康に過ごせるようにしていきたいと思います。

## 雪っておもしろいね

先月は、前日から降り積もった雪で園庭がキラキラ輝く世界に大変身しました。子どもたちは、窓の外のいつもと違う景色を指差して「うわー」「ゆき」と目を輝かせていました。テラスの雪をたらいに入れお部屋の中で触れてみました。指でそっと触れる子ども、手ですくって「いっぱい」と保育士に笑顔で見せる子ども・・・楽しみ方は様々でしたが雪に出会えた素敵な時間でした。



## 「鬼は外 福は内」



鬼役になった年長児の子どもたちが、ひよこぐみに来て豆まきをしました。鬼を見た子どもたちは一瞬動きが止まりましたが 優しい鬼で動きがゆっくりだったので安心したのか保育士と一緒に紙を丸めた豆を勇気を出してポイ！と投げました。鬼が部屋を出た後、福の神が春の花を届けに来てくれました。子どもたちは、福の神の前に集まり穏やかな雰囲気になりました。



早いもので本年度も残り2ヶ月となりました。子どもたちの成長を感じながら今まで以上に1日1日を大切に楽しい時間を過ごしていきたいと思っています。

ひよこぐみ担任・・・福岡、中村(亜)、山田



## すみれぐみだより

第11号

平成28年2月10日(水)

節分の日、鬼役になったたんぼ組さんが、すみれ組に来て豆まきをしました。

鬼さんたちは、「あまりこわくないようにしてあげようね」と、話し合っていたようで、泣きそうな子どもの前からは離れたり、ゆっくりとした動きで「鬼だよお」と言っていました。保育士が「鬼をやっつけるよ」と、言葉をかけると、子ども達は、節分の雰囲気なんとなく理解出来たようで「鬼は外」と、紙で丸めた豆を投げました。必死に私たちの方を見ながら泣きそうになるのを我慢している姿が、立春へと向かう子どもたちの育ちを感じました。

そのあと、春の花を届けてくれた福の神さんと一緒に「チューリップ」の歌を歌い春の予感がいっぱいのおもな雰囲気となりました。

立春の後の寒い日でも、子どもたちの笑顔が暖かい春へのみちすじを作ってくれるように感じました。

(雪っておもしろいね)



保育士の見守りの中で、身の回りの事をしようとする。

食後、子どもたちはパジャマに着替えて眠る準備をします。その時に、今までは、自分が脱いだ服をそのままにしていたのですが、保育士が服の畳み方を知らせると、子どもたちはすぐに興味を示し、保育士を真似て自分で畳もうとするようになりました。上着の袖が上手く折り曲げられないと、何度も自分でやろうとしていました。保育士が手伝おうとすると、嫌がって自分でしようとする子どもが増えてきました。その意欲的な子どもの育ちを大切にしています。

### 大好きな絵本の紹介

#### 「かおかおどんなかお」



柳原 良平著

絵本の中で、笑った顔、いたづらな顔、泣いた顔が出てくると、子どもたちも保育士の真似をしたり、自分で考えて色々な顔や表情をしては、笑ったり喜んでいます。

### 可愛いいつぶやき

Sちゃんがくまのぬいぐるみに布団をかけて、寝かせて遊んでいました。そこに他の子どもが近寄ってきて、その布団を、さっと、とって行ってしまいました。Sちゃんは怒るかなと心配した保育士でしたが、とって行ったのが0さいのお友だちだったので、「くまちゃんかぜひくよー」と優しく言葉をかけていました。ほのぼのとした雰囲気になりました。

1歳児担任…今丸、唐木、草場



H28. 2. 10 (水)

「春が届いたよ」

2月3日の節分にたんぼぼ組（5歳児）の鬼さんがちゅうりっぷ組に来ました。はじめは驚いて離れて様子を見ていた子どもたちでしたが、いつも遊んでくれるお兄さん、お姉さんだとわかり、ほっとした表情でした。たんぼぼ組のMちゃんが「私たちに豆を投げて、みんなの心の中の鬼を退治してくださいね。」と言うと、新聞紙で作っていた豆を「鬼は～外」「福は～内」と言って投げっていました。

鬼が帰った後、たんぼぼ組の福の神さんが保育室に入ってきました。子どもたちは「誰だろう?」という表情で見っていました。福の神が「春を届けにきましたよ。」と言ってお花のプレゼントをしてくれました。女の子がお花を受け取りました。福の神が帰る



時に「じゃあ、また来ますね。」と言って帰ろうとするとKくんが立ち上がり、「うん、また来てね。Kのお花も持って来てね。」と一生懸命伝えていてかわいかったです。福の神さんが帰った後、ちゅうりっぷ組の大きな窓から太陽の光が射し込んできました。するとすみれちゃんが「あ、春が来たみたい。福の神さんがお花持って来てくれたからよね。」と話しているのを聞いて私の心も春のようにあたたかくなりました。



だ～れだ

朝のおおつまりのときに歌に合わせて手をつなぎ、円になることができるようになってきました。そこで先日“かごめかごめ”をしてみました。初めに保育士が真ん中に座って鬼役になりました。後ろに座ったのはみずきくんです。保育士が「だ～れだって言うんだよ。」



と声をかけると、しばらく考え「Mです。」と自分の名前を言いました。もう1回やってみました。次に後ろに座ったAちゃんも「だ～れだって言うんだよ。」「Aです。」とかえってきました。3回目はIちゃんでした。Iちゃんは自分の名前を言うのは違うのだろうかという事がわかっていたようで、少し考え「崎野先生。」と真ん中に座っていた鬼役の先生の名前を言っていました。かご

めかごめのルールとは違いますが、楽しかったようです。また遊んでみようと思います。



絵本の紹介 「 やさいさん 」

絵本をめくると「すっぽ～ん」といって人参、大根、玉ねぎなどの野菜が飛び出てきます。子どもたちは野菜の葉っぱの形を見て「あ、にんじん。」「かぶよね。」と予想しています。給食のときに「あ、さっきのたまねぎさんかねえ。」「さといもさんって、さっき出てきたよねえ。」と会話も弾んでいるようです。

担任：藤田、崎野、有蘭、萩尾

## ☆第11号☆



### こすもすだより

平成28年2月10日（水）

立春を迎えましたが、まだまだ冷たい風に肩をすくめる日が続いています。しかし、そんな中でも子どもたちは「前より暖かくなってきたね」「この木につぼみがあるよ！葉っぱの赤ちゃんやね！」「もうすぐ春になるんよね」と暖かくなってきた陽ざしや木や草花の変化に気付き、少しずつ訪れる春を感じているようです。子どもたちの心や身体の育ちを支えながら、力を蓄えた小さなつぼみが豊かな花を咲かせられるように願っています。



### お外が真っ白！

先月末、大寒波の訪れにより、辺り一面が雪化粧をしたことです。

子どもたちは朝から「先生、どんどん白くなるよ」「たくさん積もったら大きな雪だるま作れるかな」と雪の舞う窓の外の様子を釘付けです。園庭に出るとそれぞれが「手がつめたーい」「雪の上歩いたらぎゅっぎゅって音がする」「つるつる凍って滑るところもあるよ！」と雪の感触を楽しんでいました。経験することのない積雪に、鼻を赤く染めた子どもたちは寒さも忘れ、雪合戦をしたり友だちと大きな雪だるまを作ったりしました。



### おにはそと！ふくはうち！

節分を迎える前に、心の中にどんな鬼がいるのか話していると、けんかしたときにすぐにごめんねって言えない・玩具を貸してあげられない・怒りんぼう・泣き虫…といろいろな鬼が出てきました。

3日の節分では、「よし！鬼はそとーってお豆投げて、泣き虫の鬼退治する！」と意気込んでいた子どもたち。鬼の登場に、泣き出してしまう子どももいましたが、「鬼は一そとー！福はーうちー！」と力強く豆を投げ、「おこりんぼう鬼逃げて行ったよ！」「悪い鬼出て行ったから、優しくなった！」と話していました。

鬼が帰り、福の神が春のお花を届けてくれると「福の神さんがきたから、ちょっと暖かくなってきたかも」「なんか春の匂いがする」と子どもたちなりに小さな春の訪れを感じているようでした。



# ひまわりだより 2月号

H28.2.10(水) 発行

立春の日の出来事です。私が保育室に入ると「先生昨日ね福の神が春のお花を持ってきてくれたんよ」と言って、花瓶にさしてある花を見せてくれました。

花を指さしNちゃんが「これが菜の花で、これが・・・なんだったかな？」と考えて、不安げに周りの友だちを見ながら「すいせんよね？」と言うと同時に「うんうん」と友だちが大きく頷いてくれました。

「それからね、みんなでどこかで春がをうたったよ」と節分の日の話を始めました。私が不幸ごとで欠勤した日の節分の行事の内容を知らせようと懸命です。話している子どもの表情からは、クラスのみならずやり遂げた満足感のようなものが伝わってきました。

話が終わると一人の子どもが♪どこかで春が生まれてる～♪と唄い始めると、クラスのみならず唄い始めました。

子どもたちのあたたかな思いに包まれ、一足先に春が訪れたような素敵な時間でした。



～はるよこい はやくこい～

先日、園庭で遊んでいると男の子3人が桜の木を囲んで話していました。

「この木の皮の中に虫がおるんよ」「だからこの木の皮だけ少しめくれているね」「皮が濡れているのはなんですか？」と、不思議そうに見ていると、Tくんが木に近づきそっと囁くように「まだ寒いから寝とくんよ」と冬眠中の虫に言っていました。

さらに園庭の花壇の土を触りながら、「土が冷たいね、まだ土が硬いよ」「おひさまが土を柔らかくしてくれたら虫たち出てこられるね」「早くあいたいな」と、冬眠している虫たちを想像していました。冬から春へと変わる自然の変化に対する小さな発見や気づきに共感しながら、より豊かな表現力へと繋げていけたらとおもいます。

## 踊り

毎週木曜日は、江口先生の踊りの指導があります。「今日は踊りがある！」と、毎週楽しみにしています。木曜日の朝は部屋の鏡の前に一列に並んで、鏡を見ながら「みぎ、ひだり、くるっと回って」と言いながら、隣の友だちとぶつかったり足を踏んだりして思うように踊れず「むずかしい」と諦めるというプロセスもありますが、一つの踊りを完成させた喜びが次の意欲に繋がっていくようです。

## ★保育参加について

2月26日(金)は保育参加日です。お子様の保育園での今年度の育ちの姿を見ていただいて、来年度につなげる喜びにしてほしいと願っています。当日はお家で子育てにお困りになっているような事がありましたら是非お越しくください。育児相談をお受けしています。

ひまわり組担任 河内・井上



1月24日には北九州で39年ぶりの雪が降り翌日も雪。子ども達は初めてこんな一面の雪を見て目を真ん丸くし園庭に飛び出していきました。

寒さも忘れ雪合戦や雪だるまを作りが始まり、沢山の雪に触れることができ大喜びの子ども達でした。

自分たちで作った大きな雪だるまに手を合わせ「たくさん雪で遊びたいです。また雪が降りますように！」とお願いをしていました。雪がこんなにも降り遊ぶ経験が少ない子ども達にとって、この日の思い出はずっと忘れないことでしょう。

いつも見る光景とはまるで違う雪化粧をした園舎はとても綺麗でした。



### 泣いた赤鬼さんから手紙だ！！

泣いた赤鬼からたんぽぽ組宛に手紙が届きました。手紙には、「2月3日にふたば保育園に遊びに行きたいのですが、保育園には鬼を怖がる子供たちが多く聞きました。0・1・2歳児クラスには、たんぽぽ組が鬼の代わりに行ってもらえませんか？」と書かれていました。早速どうしようかと話し合いが始まりました。「鬼になってみんなの胸の鬼を僕たちで退治してあげよう」「春も届けてあげたいから福の神もしよう！春が近づいているから春の花も持って行く？」などと、いろいろなアイデアが出て春の花を花屋に買いに行くことになりました。

私は花屋で花を買うだけではなく、「春の花が少しでも芽を出していないかな？見つけることができるかな」と言う思いで代表の子ども達と出発しました。すると茶屋町公園に水仙やツルニチニチソウの可憐な花が咲いていました。子ども達は目を輝かせ「春を見つけたよ！可愛い花だね！」「でもまだ寒いから春はあまりきてないね。」「今日の気温は7℃だもんね。もう少ししたら春がくるかな」と春の訪れを楽しみにしている子ども達です。

